

福祉の仕事の魅力を広い世代に伝えるため、福祉施設で働く若者の「声」を紹介するシリーズ。第2回は障害者支援施設「たんぽぽの家」（中央区田名）で働く大貫愛咲美さん（21）。

保育士になることを夢見て、保育の短大に進学した大貫さん。ある時、実習の一環で障害者支援施設を訪れた。障害者を介助するのは初の経験だったが「支えること、手助けができることに大きな喜びを感じた」という。そこから福祉の仕事に就くことを目指し、本などで知識を吸収。昨年4月、「た



「仕事は楽しい」と語る大貫さん

福祉のしごと・魅力発信② 企画／相模原市社会福祉協議会

「役に立てることが喜びに」

障害者支援施設たんぽぽの家勤務 大貫愛咲美さん



んぽぽの家」の一員となった。

障害者との関わり方、距離感、言葉の理解度…、最初は分からないことだらけで、返事すらしてもらえなかった辛い記憶も。だけどその分「笑顔で名前を呼んでもらった時は、鳥肌が立つくらい嬉しかった」と振り返る。起床介助から着替え、入浴など、まさに1日の生活を全て支える大変な仕事だが、仕事に行きたくないと思ったことはない。

「周囲には『大変でしょ』って言われるけど、そんなことは全然ない。利用者さんの話を聞くのが大好き。楽しかった出来事があった時は、友人にいっぱい話します」と笑顔を見せた。

■障害者支援施設たんぽぽの家

中央区田名6769

☎042・761・7788

※看護職員・介護職員募集中